

⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
アカデミックスキル(情報リテラシーと調査)	2	○		○							
データサイエンス	2	○	○	○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	講義内容
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1 <ul style="list-style-type: none"> ・「若者の自動離れ」とは、どのような社会現象か? 「アカデミックスキル(情報リテラシーと調査)」(4回目) ・複数技術を組み合わせたAIサービス(人間の知的活動とAIの関係性)ロボットへのティーチング「データサイエンス」(1回目) ・人間の知的活動とAIの関係性「データサイエンス」(13回目) ・省力化に貢献するロボット、普及によるSociety5.0の実現「データサイエンス」(14回目)
	1-6 <ul style="list-style-type: none"> ・インターネットやweb検索の歴史を紹介: 情報検索(人の行動ログデータ・商品のレコメンテーション)「アカデミックスキル(情報リテラシーと調査)」(1回目)
(2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2 <ul style="list-style-type: none"> ・著作権と許諾・引用について考える: webから入手できる公開データと取り扱いと活用を学ぶ、データのオープン化を情報倫理から考える「アカデミックスキル(情報リテラシーと調査)」(2回目) ・人の行動ログデータ、データ作成、非構造化データ(文章、画像/動画)「データサイエンス」(1回目) ・調査データ、実験データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータなど「データサイエンス」(3回目)
	1-3 <ul style="list-style-type: none"> ・インターネットやweb検索の歴史を紹介: 文章生成AIによる要約やレジュメづくり「アカデミックスキル(情報リテラシーと調査)」(1回目) ・仮説検証・原因究明のためのデータ取得方法を学ぶ「アカデミックスキル(情報リテラシーと調査)」(3回目) ・仮説検証、知識発見、原因究明、計画策定、判断支援、活動代替、新規生成など「データサイエンス」(11回目) ・データ・AI活用領域の広がり(生産、消費、文化活動など)「データサイエンス」(12回目) ・自動取得されるビッグデータから、問題との関連性の仮説検証・原因究明「データサイエンス」(13回目)
(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4 <ul style="list-style-type: none"> ・特化型AI、汎用AI「アカデミックスキル(情報リテラシーと調査)」(13回目) ・データ可視化、複合グラフ、2軸グラフ、予測、パターン発見「データサイエンス」(4回目) ・特化型AIと汎用AI、今のAIで出来ることと出来ないこと、AIとビッグデータ「データサイエンス」(12回目)
	1-5 <ul style="list-style-type: none"> ・情報倫理(匿名加工情報)「アカデミックスキル(情報リテラシーと調査)」(3回目) ・成績評価課題の作成準備: 公開データから、文章生成AIを用いた要約やレジュメを作り「アカデミックスキル(情報リテラシーと調査)」(13回目) ・パスワード管理、情報漏洩などによるセキュリティ事故の事例紹介「データサイエンス」(1回目)

(4) 活用に当たった様々な留意事項 (ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報の保護、データ倫理(データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護)「アカデミックスキル(情報リテラシーと調査)」(2回目) ELSI(Ethical, Legal and Social Issues)、AIサービスの責任論「データサイエンス」(13回目) フェイク動画などAI活用における負の事例、AI社会原則(説明責任・人間中心の判断)「データサイエンス」(14回目)
	3-2	<ul style="list-style-type: none"> 情報倫理(匿名加工情報)「アカデミックスキル(情報リテラシーと調査)」(3回目) 匿名加工情報、暗号化、パスワード、悪意ある情報搾取、情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介「アカデミックスキル(情報リテラシーと調査)」(13回目) パスワード管理、情報漏洩などによるセキュリティ事故の事例紹介「データサイエンス」(1回目)
(5) 実データ・実課題 (学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	<ul style="list-style-type: none"> 統計情報の正しい理解(誇張表現に惑わされない)「データサイエンス」(2回目) データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)、代表値の性質の違い(実社会では平均値＝最頻値でないことが多い)「データサイエンス」(5回目) データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値)「データサイエンス」(6回目) 相関と因果(相関係数、擬似相関、交絡)「データサイエンス」(7回目) 母集団と標本抽出、誇張表現に惑わされない「データサイエンス」(8回目)
	2-2	<ul style="list-style-type: none"> 優れた可視化事例を紹介「アカデミックスキル(情報リテラシーと調査)」(14～15回目) データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップ)「データサイエンス」(3回目) データの図表表現(チャート化)、データの表現、データの比較、不適切なグラフ表現(チャートジャンク、不必要な視覚的要素)「データサイエンス」(4回目)
	2-3	<ul style="list-style-type: none"> 表形式のデータ(csvの活用)、データの集計・データの並び替え、ランキング「データサイエンス」(3回目) データの集計(和、平均)「データサイエンス」(5回目)

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

- ① データサイエンスやAI技術の飛躍的發展やその活用範囲の広がりが、産業や仕事、私たちの暮らしにもたらす大きな変化を理解し、そうした技術を活用する意義を説明することができる。
- ② データ駆動型社会に潜むリスクについて理解し、遵守すべき法制度や倫理、留意事項等を踏まえて正しくデータを取り扱うことができる。
- ③ 現実世界の課題を解決するためのAIやデータサイエンスに関する手法の基礎的内容を理解し、それらを用いる場面で建設的にコミュニケーションをとることができる。
- ④ 解決すべき課題内容を定量的なものと同定性的なものに区分し、それぞれの特性を考慮したうえで課題解決方法を論理的に検討することができる。

【参考】

⑫ 生成AIに関連する授業内容 ※該当がある場合に記載

教育プログラムを構成する科目に、「数理・データサイエンス・AI(リテラシーレベル)モデルカリキュラム改訂版」(2024年2月 数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム)において追加された生成AIに関連するスキルセットの内容を含む授業(授業内で活用事例などを取り上げる、実際に使用してみるなど)がある場合に、どの科目でどのような授業をどのように実施しているかを記載してください。

※本項目は各大学の実践例を参考に伺うものであり、認定要件とはなりません。

講義内容

プログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度 令和4 年度

②大学等全体の男女別学生数 男性 1508 人 女性 432 人 (合計 1940 人)

③履修者・修了者の実績

学部・学科名称	学生数	入学定員	収容定員	令和5年度		令和4年度		令和3年度		令和2年度		令和元年度		平成30年度		履修者数合計	履修率
				履修者数	修了者数	履修者数	修了者数										
法学部	597	150	600	120	35	66	4									186	31%
現代ビジネス学部	1,342	350	1,400	293	67	166	32									459	33%
国際関係学部(募集停止)	1	0	0	0	0	0	0									0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
合計	1,940	500	2,000	413	102	232	36	0	0	0	0	0	0	0	0	645	32%

大学等名

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数 (常勤) 人 (非常勤) 人

② プログラムの授業を教えている教員数 人

③ プログラムの運営責任者
(責任者名) (役職名)

④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)

(責任者名) (役職名)

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

⑥ 体制の目的
数理・データサイエンス・AI教育プログラム運営ワーキンググループは、本学における数理・データサイエンス・AI教育プログラム(以下、本教育プログラムとする)の計画策定及び適正な運営に関わる以下の事項に関わる活動を行う。
(1)本教育プログラムの全学的な普及、関連科目や教育方法、学習支援の整備
(2)本教育プログラムの自己点検・評価及び改善のために必要なデータの収集・分析
(3)その他本教育プログラムに関すること

申請時点では、基礎教育センター委員会のもとに設置した「数理・データサイエンス教育プログラム運営ワーキンググループ」が所掌するが、令和6年度内に「九州国際大学数理・データサイエンス教育プログラム運営委員会規程」を制定し、本教育プログラムに係る活動については同規程に基づき設置された九州国際大学数理・データサイエンス教育プログラム運営委員会に移管する予定である。

⑦ 具体的な構成員
三輪 仁 教務部長(現代ビジネス学部教授)
松井 貴英 基礎教育センター長(現代ビジネス学部教授)
水井 雅彦 法学部教授
高崎 浩平 法学部助教
大澤 健司 現代ビジネス学部准教授
古賀 勇 現代ビジネス学部准教授
宮城 浩 教育支援部長(兼 基礎教育センター事務室長)
金山 英樹 学務事務室長

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画 ※様式1の「履修必須の有無」で「計画がある」としている場合は詳細について記載すること

令和5年度実績	32%	令和6年度予定	50%	令和7年度予定	75%
令和8年度予定	100%	令和9年度予定	100%	収容定員(名)	2,000

具体的な計画

令和6年度においては、入学生オリエンテーションなどの場で、データサイエンスやICTのスキルを身につけることが将来のキャリア形成の可能性を拓けることを伝え、学生の本教育プログラムへの関心と受講への意欲を喚起していく。また、教職員に対しても、本学の教育における本教育プログラムの重要性の共有を進めるとともに、演習科目などを通じて未履修者への履修の勧奨を要請していく。

令和7年度からは全員履修科目として開講することになり履修者数・履修率の向上が見込まれる。ただし、本学においては情報端末の扱いに不慣れなまま入学する学生も多いため、途中での脱落者を抑制するための対策の実施を予定している。当該科目担当教員のみならず受講生の演習担当教員、基礎教育センターによる複数のサポート体制を整備し、脱落の兆候の見られる学生への迅速なケア、授業についていけない学生のキャッチアップのサポートのほか、授業内容においても高等学校の「情報Ⅰ」とのつながりを意識した構成としている。一方で高い意欲を持った学生を対象とした、さらに高度な内容の上位科目の新設や修了認定においてもインセンティブとなるような仕掛けの提供を検討している。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

本教育プログラムの科目は全学部学科・全学年を対象の共通教育科目として開講している。「アカデミックスキル(情報リテラシーと調査)」はパソコン実習も取り入れた講義形式のため、令和6年度においては新生の全員履修の実現に至っていない。次年度は開講クラス数を拡大し新生の全員履修とするとともに、2年次以上の学生向けのクラスも用意し学年に関係なく希望者が受講可能となるような体制を確立する予定である。

令和4年度入学生より、本学での学びにおいて情報端末を積極的に活用しICTスキルを高めることでデジタル社会において活躍する人材となるよう、携帯型パソコンを必携としている。諸事情により携行情報端末を用意できない学生に対しては、学生支援室においてノートパソコンの貸し出しサポートを行っているなど、本教育プログラムを全新生が履修する環境に注力している。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

令和6年度新生より入学時の履修登録時に本教育プログラム申請対象科目についての紹介を行い、数理・データサイエンス・AIに関する基本的な知識、スキルを習得することの重要性を説明する。また、初年次演習担当者にも本教育プログラム申請対象科目の履修を勧奨するよう要請し、教授会での告知などを通して全教員が本教育プログラムの意義を共有するようしていく。

本教育プログラムが認定を受け次第、本学ウェブサイトにも本教育プログラム特設サイトを掲載して、学生への周知のみならず入学希望者への情報提供に活用することを予定している。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

本教育プログラム対象科目向けに授業担当教員が作成した各種教材は、本学のLMS(KIUポータル)を通じて学生に共有され、授業の予習・復習や欠席時のキャッチアップなどに活用できるようにしている。また、学生の出席状況や課題提出状況、個別の質問内容等を、教員は本学LMSから把握できるようになっている(学生も同じシステムを用い、自身の出席や課題提出の状況を確認できる)。

教員はLMSに集約された様々な情報をもとに、一人一人の学生に対して課題提出を促したり習熟度に合わせたフォローを行ったりするなど、きめ細かな指導を行うことが可能である。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

授業時間以外での学習指導や質問の受け付けは、LMS(KIUポータル)を通じて学生がいつでも行えるようになっており、直接授業担当者から回答や指導を受けることもできる。その他にも、担当教員が設定したオフィスアワー(週2コマ以上)に対面での質問や指導を受けることができる。さらに、基礎教育センターにおいても、スタッフによる質問の受け付けや学習指導が可能な体制を整え、学生がいつでもサポートを受けられる環境を構築する。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

九州国際大学自己点検・評価運営委員会

(責任者名) 櫻井 弘晃

(役職名) 学長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	<p>学生のプログラム当該科目の履修・修得状況及び講義への出席状況についてのデータは、LMS(KIUポータル)に記録され、本学教員と情報が共有されるほか、保護者用サイトを通じて保護者も確認することができる。教務委員会、演習担当者会議、保護者などと連携し、当該科目への出席率向上と途中離脱者の防止に継続的に注力していく。</p> <p>数理・データサイエンス・AI教育プログラム運営ワーキンググループにおいても、これらのデータを活用し、履修者の単位取得率の向上を図るための教育プログラムの改善を検討・実施する。</p>
学修成果	<p>数理・データサイエンス・AI教育プログラム運営ワーキンググループにおいて、当該科目の受講者平均GPAの分布や授業回ごとの課題提出率、LMS(アセスメント)を通じ受講者が提出する授業評価アンケートや各科目の学修到達度についての自己評価などのデータをもとに分析し、本教育プログラムの改善と教育内容の平準化を図っていく。</p> <p>なお、令和6年度より本教育プログラム当該科目受講者を対象とした「数理・データサイエンス・AI教育プログラム受講者アンケート」を実施し、受講者における各科目の理解度及び数理・データサイエンス・AIに対する関心の変化、プログラムの改善点などについて意見を収集し、今後の運営・改善の資料とする。</p>
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	<p>科目担当者は、受講生がLMS(アセスメント)を通して回答する授業評価アンケート、各科目の学修到達度についての自己評価などを確認に活用する。授業評価結果については、本学大学ホームページで公表するとともに、FD委員会を通じ授業改善にも活用している。</p>
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	<p>令和5年度授業評価アンケートにおける当該科目受講生のコメントをみても、「将来に活かせる情報リテラシーを学ぶことができた。」「この授業はもっと早く学ぶべきだったと後悔していますので1年次からの必修にしても良いと思います。」「などの感想が寄せられ、後輩等他の学生への高い推奨度を抱いた学生が多いものとみられる。これらの学生アンケートの結果は学内に公開し、後輩学生の閲覧も可能となっており、本教育プログラムの内容の理解や受講の動機づけに役立てられるものと期待する。</p>
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	<p>令和6年度においては、新入生の履修登録ガイダンス時に数理データサイエンスAI関連科目の履修を勧奨するチラシを配るとともに、演習担当教員への協力を要請した。本教育プログラム当該科目のなかには希望者が殺到し多くの履修漏れが生じたものもあるので、秋学期に追加開講を実施する予定である。令和7年度新入生より本教育プログラム当該科目すべてを全員履修科目として開講する予定である。</p>

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
<p>学外からの視点</p> <p>教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価</p> <p>産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見</p>	<p>本教育プログラムは令和4年度より開始しているため、まだ修了した卒業生が出ていないものの、受講者のなかには本プログラム当該科目から触発を受けて、IT関連の仕事への志望度を高めたり、専門演習ではデータ分析をテーマとする演習(ゼミ)へ進んだ学生も見られる。二科目修了者にヒアリングを行い、次のような回答を得ることができた。「この授業を受けたことが、情報や統計といったものを扱うゼミを選択するきっかけのひとつとなった」「将来、教員として電子化された環境の中で教えるということになると思うので、そのような場合に必要な知識やスキルを身に付けることができたように思う」といったコメントが得られた。また、「楽しかった」「授業を受けてよかった」といった好意的な評価をえられた。</p> <p>本学卒業の中小企業経営者に意見を求めたところ、人手不足が深刻化するなかAIの活用などDX化には大企業のみならず多くの中小企業も積極的になっており、数理・データサイエンス・AIについての基礎的な知識・スキルは今後文理問わず社会で必要になってくると考えられ、本教育プログラムの全員履修での実施に対しては期待したいとの意見が得られた。今後は、産業界の識者も複数含まれる「九州国際大学外部評価委員会」において、定期的に本教育プログラムの概要説明と実施報告を行い、評価や改善に向けた助言を受ける予定である。</p>
<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<p>本学にある二学部三学科の学びとの接続を考慮し、それぞれの専門分野の垣根を越えて理解でき、かつその分野の学びと深くかかわる授業内容を提供する。そのうえで、気づきを促すような内容とすることで、現実社会における様々な課題への理解の深まり・課題解決能力の向上等を学生自身が感じる事が可能な授業を構成していく。また、最新技術によって引き起こされている社会の変化の実例などを示すことで、社会で求められる人物像や役割といったものを具体的に学生にイメージさせ、数理・データサイエンス・AIを学ぶことの意義を理解させる。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p>	<p>本教育プログラムの対象学生が文系ということ踏まえ、具体例などを多数紹介することによって授業内容を身近に感じてもらう。また、学生本人が身近に感じるであろう事柄もしくは社会の一員として今後主体的に引き受けていかなければならないテーマなどを提示し、高校までの学習内容の理解を深める題材に取り組む授業回を設定する。これにより、既習事項とのつながりを明確にし、より深め、「分かる」という感覚を実感できる授業構成とする。</p> <p>また、本教育プログラム担当教員それぞれの専門分野における最新の話題を授業内容に組み込むことを協議し、定期的に教育内容を見直ししていく場を設ける予定である。</p>

科目名称	12028 アカデミックスキル（情報リテラシーと調査）		配当学年	1年		単位	2単位
担当教員名	水井 雅彦		授業開始学期	春学期	曜日時間	水曜1限	教室
実務経験のある教員による授業		授業形態	講義	○	演習ゼミ		実習
							3406教室

ねらい	情報通信技術（information and communication technology; ICT）はこれまでの時間と距離の概念を変え、情報の収集と発信を容易にした。書籍や新聞は、著者・記者と編集者により情報の「正しさ」がある程度確保されていた。しかし、web検索で得た情報や記事の「正しさ」は、自ら確認する必要がある。また、情報を発信するとき、著作権やマナーなど情報倫理に対する配慮が不可欠となる。本講義では、情報倫理・検索方法・情報確認・プレゼンテーションに対する講義を行い、課題レポートやアンケート集計、卒業研究で役立ててもらいたい。
講義概要	web情報検索による調査と、プレゼンテーションのための資料作成に重点を置く。講義テーマに合わせ、必要な知識を補足説明する。情報検索は、受講者のスマートフォン・ノートPCなどを用いる。便利な機能を知っていても、使えなければ意味がない。講義内容は、大学での課題レポート作成・ゼミでの発表で必要な内容で構成する。

講義形式			
情報収集・資料収集	○	グループディスカッション	
反転授業・双方向授業		プレゼンテーション	○
グループワーク		振り返り、ミニツツペーパー	○
ピアティーチング		PBL(問題・課題解決型)	○

達成目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学生活に必要なとなる基礎的なパソコンとソフトウェア、アプリケーションの操作ができる。 2. プレゼンテーションソフトを用いて資料を作成でき、レイアウトをはじめとした編集や加工を行うことができる。 3. 情報倫理を理解した上で、web検索による調査・情報の発信が適切に行える。 4. 各講義・実習などの課題レポートを作成でき、電子メールを用いた提出をはじめ各提出方法に対応できる。
------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業を通して修得可能な能力					
知識・理解	多文化・異文化	○	関心・意欲・態度	自己管理力	○
	人文・社会・自然	○		チームワーク・リーダーシップ	
	専門知識	○		倫理観	○
思考・判断	論理的思考力	○		社会的責任	○
	問題解決力	○		生涯学習力	○
総合的な学習経験と創造的思考力		○	技能・表現	コミュニケーションスキル	○
				数量的スキル	○
				情報リテラシー	○

コースとの関連					
法律学科	キャリア	○	地域経済学科	経済	○
	資格取得	○		経営	○
	リスクマネジメント	○		地域づくり	○
国際社会学科	英語	○		観光ビジネス	○
	ハングル	○		スポーツマネジメント	○
	国際	○			

関連科目	（共通教育科目）情報処理演習、数学と社会、データサイエンス。 （専門教育科目）【地域経済学科】統計学入門、経済統計、経済数学、ビジネスプログラミング、ビジネスデータ分析。 ※科目名は学年によって異なります。各自の教育課程表で確認してください。
------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

準備学習等	<p>【予習】</p> <p>①シラバスの講義テーマを参考に、事前にweb検索を実施し概要を予習する 30分</p> <p>②前回までの講義の内容を再確認し、実習課題に再度取り組む 60分</p> <p>【復習】</p> <p>①提出課題作成 60分</p>
-------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<p>②コンピュータを使う機会を増やすため、講義ノートを一プロで作成 30分</p> <p>【履修上の注意】</p> <p>①本講は情報機器とその操作について、各高校で学ぶ知識・経験を前提にします。</p> <p>②各自に配布されている本学ネットワークシステムの「DINOS登録情報」を毎回必ず持参すること（特に開講時）。この情報がないと本講義は受講できません。</p> <p>③スマートフォン・ノートPCでweb情報検索が行える準備が必要です。初回講義でも説明します。</p> <p>④講義中にノートPCにて講義内容と同じ操作を試すことが望ましいが、無くても受講できます。</p> <p>⑤課題の提出と配布にwebシステムを用いる場合があります。 講義内容が理解できない場合、必ず質問に来てください。</p> <p>【学習上の質問・相談等】</p> <p>受講者の質問・相談は、個人の知識・経験・環境により異なります。 講義内容以外にも、ICT機器の利用に関する質問に対し解る範囲でアドバイス致します。</p> <p>①講義中に質疑の時間を必ず取るので質問はできるだけこの時間に出してください。</p> <p>②KIUポータル上のQ&A機能でも、質問も受け付けます。</p> <p>③オフィスアワー（待機時間は別途確認）も、併せて活用してください。</p> <p>④時間を要する質問や相談には、時間と説明場所（研究室、スタディスペースなど）を指示します。</p>
第1回	<p>情報検索</p> <p>インターネットやweb検索の歴史を紹介：情報検索（人の行動ログデータ・商品のレコメンテーション）</p> <p>インターネットやweb検索の歴史を紹介：文章生成AIによる要約やレジュメづくり</p> <p>【予復：「インターネット」についてwebで調査する。復習：演習問題を再調査する。】</p>
第2回	<p>情報倫理 1</p> <p>著作権と許諾・引用について考える：webから入手できる公開データと取り扱いと活用を学ぶ、データのオープン化を情報倫理から考える。</p> <p>個人情報の保護、データ倫理（データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護）</p> <p>【予復：「著作権」についてwebで調査する。復習：演習問題を再調査する。】</p>
第3回	<p>情報倫理 2</p> <p>仮説検証・原因究明のためのデータ取得方法を学ぶ。</p> <p>情報倫理（匿名加工情報）</p> <p>「恋ダンス」と著作権を考える。自分の意見をKIUポータルへ提出する。</p> <p>【予復：「踊ってみた」「恋ダンス」についてwebで調査する。復習：演習問題を再調査する。】</p>
第4回	<p>調査と考察 1</p> <p>「若者の自動離れ」とは、どのような社会現象か？ 自分の意見をKIUポータルへ提出する。</p> <p>【予習：「若者の自動離れ」をwebで調査する。復習：演習問題を再調査する。】</p>
第5回	<p>調査と考察 2</p> <p>自動車は生活に必要ですか？ 自分の意見をパワーポイント資料へまとめる。</p> <p>【予習：自動車の所有に関する意見をwebで調査する。復習：パワーポイント課題を練習。】</p>
第6回	<p>パワーポイント入門 1</p> <p>「セドリ」は善？ 悪？ 自分の意見をパワーポイント資料へまとめる。</p> <p>【予習：「セドリ」をwebで調査する。復習：パワーポイント課題を練習。】</p>
第7回	<p>パワーポイント入門 2</p> <p>地元の銘菓を紹介してください。お菓子の写真をwebから探し、パワーポイント資料へ使う。</p> <p>【予習：地元の銘菓をwebで調査する。復習：パワーポイント課題を練習。】</p>
第8回	<p>パワーポイント資料 1</p> <p>5W1Hを意識して、自分の考えを纏めてください。行ってみたい海外旅行先をパワーポイントへまとめる。</p> <p>【予習：行ってみたい海外旅行先をwebで調査する。復習：パワーポイント課題を練習。】</p>
第9回	<p>パワーポイント資料 2</p> <p>地元（出身地）近くの観光地を紹介してください。資料をパワーポイントへまとめる。</p> <p>【予習：地元（出身地）近くの観光地をwebで調査する。復習：パワーポイント課題を練習。】</p>
第10回	<p>パワーポイント資料 3</p> <p>あなたにとって、今年の重大ニュースは何ですか？ ニュースの詳細と意見をパワーポイントへまとめる。</p> <p>【予習：今年の重大ニュースをwebで調査する。復習：パワーポイント課題を練習。】</p>
第11回	<p>パワーポイント資料 4</p> <p>就職したいのは 地方？ 都市部？ 自分の意見を、パワーポイントへまとめる。</p> <p>【予習：就職先として、地方・都市部をwebで調査する。復習：パワーポイント課題を練習。】</p>
第12回	<p>パワーポイント資料 5</p> <p>友達に進めたい書籍の紹介を、パワーポイントへまとめる。</p> <p>【予習：友達に進めたい書籍の詳細をwebで調査する。復習：パワーポイント課題を練習。】</p>

第13回	<p>成績評価課題の作成準備：公開データから、文章生成AIを用いた要約やレジユメを作り特化型AI、汎用AI</p> <p>匿名加工情報、暗号化、パスワード、悪意ある情報搾取、情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介</p> <p>指示したテーマを調査し、自身の考えを反映させたパワーポイント資料を作成する。</p> <p>【予習：既習事項の確認、復習：オリジナリティと「気づかい」ある課題の作成。】</p>
第14回	<p>成績評価課題の作成 1</p> <p>優れた可視化事例を紹介 1</p> <p>指示したテーマを調査し、自身の考えを反映させたパワーポイント資料を作成する。</p> <p>【予習：既習事項の確認、復習：オリジナリティと「気づかい」ある課題の作成。】</p>
第15回	<p>成績評価課題の作成 2</p> <p>優れた可視化事例を紹介 2</p> <p>指示したテーマを調査し、自身の考えを反映させたパワーポイント資料を作成する。</p> <p>アセスメンター（自己評価と授業アンケート）の入力</p> <p>【予習：既習事項の確認、復習：オリジナリティと「気づかい」ある課題の作成。】</p>
評価方法	講義内の提出課題・宿題で評価する。定期試験を実施する予定はない。
評価基準	<p>AA 各種調査と結果の分析、プレゼンテーション、情報管理などの機会にコンピュータを適切かつ効率的に運用できる。</p> <p>A 独力でコンピュータを用いて、レポート等の文書作成・表計算・作図等を行うことができる。</p> <p>B 独力でコンピュータを用いて、文書作成・表計算・作図等に関する基本的な操作を行うことができる。</p> <p>C コンピュータの基本的な操作方法は身に着いている。説明を参照しながらコンピュータを使うことができる。</p> <p>F 基本的な操作方法が身に着いておらず、文書作成等にコンピュータを使うことができない。</p>
教科書	プリントまたはKIUポータルによりファイル形態で教材・資料等を配布。詳細は講義中に指示する。
参考書	質問内容と理解度に応じた書籍を指示する。

科目名称	15048 データサイエンス		配当学年	1年		単位	2単位	
担当教員名	水井 雅彦		授業開始学期	秋学期	曜日時間	木曜5限	教室	2401教室
実務経験のある教員による授業		授業形態	講義	○	演習ゼミ		実習	

ねらい	ビッグデータと人工知能活用の活用は、社会や企業が抱える問題や課題を「数」用いて論理的に解決しようとする要求から広がっている。そこで必要になるのが、統計学・機械学習や問題解決手法である。本講義では大学での課題レポート・アンケート集計や卒業研究などを想定し、「数」を根拠とした問題解決のための方法を身に付けてもらいたい。
講義概要	高校数学（数学Ⅰ・数学Aまで）を振り返りながら、大学の課題レポート・アンケート集計や卒業研究などで活用できる問題解決の基礎知識を取り扱う。統計学の初歩から学び、問題解決への応用までを体験する。実社会での数学活用を知ること、学んでいる内容の価値に気づいて欲しい。

講義形式			
情報収集・資料収集	○	グループディスカッション	
反転授業・双方向授業		プレゼンテーション	○
グループワーク		振り返り、ミニツツペーパー	○
ピアティーチング		PBL(問題・課題解決型)	○

達成目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎的な計算と関数の概念を正しく理解し、解を導くことができる。 2. 数値データの収集と評価を行い、問題解決に必要なモノを抽出できる。 3. 問題や課題の要因に対し、仮説を立てることができる。 4. 身近な実社会の問題を数学的に理解でき、基本的な問題を解くことができる。
------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業を通して修得可能な能力					
知識・理解	多文化・異文化		関心・意欲・態度	自己管理力	○
	人文・社会・自然	○		チームワーク・リーダーシップ	
	専門知識	○		倫理観	○
思考・判断	論理的思考力	○		社会的責任	○
	問題解決力	○		生涯学習力	○
総合的な学習経験と創造的思考力		○	技能・表現	コミュニケーションスキル	
				数量的スキル	○
				情報リテラシー	○

コースとの関連					
法律学科	キャリア	○	地域経済学科	経済	○
	資格取得	○		経営	○
	リスクマネジメント	○		地域づくり	○
国際社会学科	英語	○		観光ビジネス	○
	ハングル	○		スポーツマネジメント	○
	国際	○			

関連科目	<p>(共通教育科目) 情報処理演習、情報処理B、数学と社会。 (専門教育科目) 【地域経済学科】 統計学入門、経済統計、経済数学、ビジネスプログラミング、ビジネスデータ分析。 ※科目名は学年によって異なります。各自の教育課程表で確認してください。</p>
------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

準備学習等	<p>【予習】 ①シラバスの講義テーマを参考に、高校で用いた教科書の演習問題を確認 30分 ②前回までの講義の内容を再確認し、実習課題に再度取り組む 60分</p> <p>【復習】 ①苦手・不得意と思える内容を自習する。講義の演習資料・高校教科書など参考に。 90分</p> <p>【履修上の注意】</p>
-------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<p>①高校で使っていた数学の教科書・参考書を準備してください。</p> <p>②ノートは表紙のあるA4方眼ノートを推奨します。ルーズリーフは便利ですが、過去の振り返りや紛失の恐れがあります。</p> <p>③スマートフォンでweb情報検索を行える準備が必要です。</p> <p>④板書をノートへ記入する事に加え、講義で話す内容メモが取れる様に心がけてください。 重要なことは繰り返し話します。</p> <p>⑤課題の提出と配布にwebシステムを用いる場合があります。 講義内容が理解できない場合、必ず質問に来てください。</p> <p>【学習上の質問・相談等】 受講者の質問・相談は、個人の知識・経験・環境により異なります。 講義内容以外にも、数学に関する質問に対し解る範囲でアドバイス致します。 ①講義中に質疑の時間を必ず取るので質問はできるだけこの時間に出してください。 ②KIUポータル上のQ&A機能でも、質問も受け付けます。 ③オフィスアワー（待機時間は別途確認）も、併せて活用してください。 ④時間を要する質問や相談には、時間と説明場所（研究室、スタディスペースなど）を指示します。</p>
第1回	<p>パスワード管理、情報漏洩などによるセキュリティ事故の事例紹介 複数技術を組み合わせたAIサービス（人間の知的活動とAIの関係性）ロボットへのティーチング 人の行動ログデータ、データ作成、非構造化データ（文章、画像/動画） 講義の目的と、学ぶ項目についての関連性を確認する。 【予復：将来、就きたい仕事の業務内容を調査しておく。復習：大学で数学が必要な状況を纏める。】</p>
第2回	<p>高校数学での統計学を再確認 高校数学の演習問題を基に、統計学を振り返る。 統計情報の正しい理解（誇張表現に惑わされない） 【予復：数学Ⅰ・数学Aの教科書を一読する。復習：演習問題を自身で解きなおす。】</p>
第3回	<p>データを読む 調査データ、実験データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータなど データ表現（棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップ） 表形式のデータ（csvの活用）、データの集計・データの並び替え、ランキング 【予復：講義内容の苦手分野を高校教科書中心に自習。復習：演習問題を自身で解きなおす。】</p>
第4回	<p>データの整理と指標 データ可視化、複合グラフ、2軸グラフ、予測、パターン発見 データの図表表現（チャート化）、データの表現、データの比較、不適切なグラフ表現（チャートジャンク、不必要な視覚的要素） 図表やグラフの種類と特性・平均・メディアン・最頻値などを学ぶ。 【予復：講義内容の苦手分野を高校教科書中心に自習。復習：演習問題を自身で解きなおす。】</p>
第5回	<p>データの分布と相関関係 データの分布（ヒストグラム）と代表値（平均値、中央値、最頻値）、代表値の性質の違い（実社会では平均値＝最頻値でないことが多い） データの集計（和、平均） 【予復：講義内容の苦手分野を高校教科書中心に自習。復習：演習問題を自身で解きなおす。】</p>
第6回	<p>母集団と標本・確率 データのばらつき（分散、標準偏差、偏差値） データ発生メカニズムを考え、事象の独立性について考える。 【予復：講義内容の苦手分野を高校教科書中心に自習。復習：演習問題を自身で解きなおす。】</p>
第7回	<p>母集団と確率分布・確率変数 相関と因果（相関係数、擬似相関、交絡） 確率分布・確率変数について学ぶ。 【予復：講義内容の苦手分野を高校教科書中心に自習。復習：演習問題を自身で解きなおす。】</p>
第8回	<p>母集団を推測 1 母集団と標本抽出、誇張表現に惑わされない 推定・検定について、実際のデータから考える。 【予復：講義内容の苦手分野を高校教科書中心に自習。復習：演習問題を自身で解きなおす。】</p>
第9回	<p>母集団を推測 2 推定・検定について、実際のデータから考える。 【予復：講義内容の苦手分野を高校教科書中心に自習。復習：演習問題を自身で解きなおす。】</p>
第10回	<p>問題解決と木分解 現状理解と原因の特定について考える。 【予復：講義内容の苦手分野を高校教科書中心に自習。復習：演習問題を自身で解きなおす。】</p>
第11回	<p>問題原因の仮説 仮説検証、知識発見、原因究明、計画策定、判断支援、活動代替、新規生成など</p>

	<p>問題原因を細分化するため、木分解を使い筋道を立て明確にしてみよう。 【予復：講義内容の苦手分野を高校教科書中心に自習。復習：演習問題を自身で解きなおす。】</p>
第12回	<p>仮説の立て方と情報収集 データ・AI活用領域の広がり(生産、消費、文化活動など) 特化型AIと汎用AI、今のAIで出来ることと出来ないこと、AIとビッグデータ 木分解で立てた筋道を絞り込み、仮説を立てる。この仮説に沿って情報を収集する方法を学ぶ。 【予復：講義内容の苦手分野を高校教科書中心に自習。復習：演習問題を自身で解きなおす。】</p>
第13回	<p>機械学習と問題解決 人間の知的活動とAIの関係性 自動取得されるビッグデータから、問題との関連性の仮説検証・原因究明 ELSI (Ethical, Legal and Social Issues)、AIサービスの責任論 コンピュータが問題解決に対して、どんな仕事をしているか学ぶ。 【予復：講義内容の苦手分野を高校教科書中心に自習。復習：演習問題を自身で解きなおす。】</p>
第14回	<p>総合課題 1 省力化に貢献するロボット、普及によるSociety5.0の実現 フェイク動画などAI活用における負の事例、AI社会原則（説明責任・人間中心の判断） 【予復：講義内容の苦手分野を高校教科書中心に自習。復習：演習問題を自身で解きなおす。】</p>
第15回	<p>総合課題 2 いくつかの問題に対し、これまで学んだ事を活用し原因と対策を考える。 アセスメンター（自己評価と授業アンケート）の入力 【予復：講義内容の苦手分野を高校教科書中心に自習。復習：演習問題を自身で解きなおす。】</p>
評価方法	<p>提出課題・小テストで評価する。定期試験を実施する予定はない。</p>
評価基準	<p>AA 問題解決に向け論理的に原因を指摘し、統計学を用いたデータ検証がとても良くできる。 A 問題解決に向け論理的に原因を指摘し、統計学を用いたデータ検証が十分できる。 B 問題解決に向け論理的に原因を指摘し、統計学を用いたデータ検証がほぼ評価できる。 C 問題解決に向け論理的に原因を指摘し、統計学を用いたデータ検証が何とか評価できる。 F 基本的な知識・手法が身に着いていない。</p>
教科書	<p>プリントまたはKIUポータルによりファイル形態で教材・資料等を配布。詳細は講義中に指示する。</p>
参考書	<p>質問内容と理解度に応じた書籍を指示する。</p>

法学部法律学科 カリキュラムマップ

必修科目 赤字は実習科目

学部 人材養成	法学部は、法律の専門的・体系的知識に基づく法的思考力を修得させ、もって理論実践両面に明るい人材を養成することを目的とする。
学科 人材養成	法学部法律学科は、法律の専門的・体系的知識に基づく法的思考力を修得させるとともに、フィールドワークを通じて実践力を獲得させ、もって地域の行政・企業分野において実務を遂行できる人材、及び企業活動に積極的に関与できる法律のプロフェッショナルを養成する。
学位授与 方針	<p>【知識・理解】</p> <p>①人文社会自然科学を基礎とした幅広い教養を身につけている。</p> <p>②法律学の専門的知識及びその活用方法を身につけている。</p> <p>【思考・判断】</p> <p>③リーガルマインドに基づき、基礎的な法律の知識から論理的に考える能力を修得しており、その知識を使って現代社会の問題を分析し考察することができる。</p> <p>④現代社会の多様なフィールドにおける諸課題の解決に向けて、的確な学際的考察及び総合的判断ができる。</p> <p>【関心・意欲・態度】</p> <p>⑤現代社会の諸課題に対して自ら積極的に関心をもち続け、現代社会に貢献することができる。</p> <p>⑥グループで協力しながら問題を解決する態度、生涯学び続け成長し続ける意欲と態度を身につけている。</p> <p>【技能・表現】</p> <p>⑦自己の思考・判断のプロセス及び結果を他者にわかりやすくプレゼンテーションできる。</p> <p>⑧良好な人間関係を構築するためのコミュニケーション能力を身につけている。</p>

大学共通													
学位授与 の方針 (再表現)	人文社会自然科学を基礎とした幅広い教養を身につけている。		グループで協力しながら問題を発見し解決する態度、生涯学び続け成長し続ける意欲と態度を身につける。		どのような職業においても必要とされる、法律学の基礎知識を習得したうえで、法学に裏打ちされた論理的思考力、ならびに、その活用方法を身につける。		現代社会の多様なフィールドにおける諸課題の解決に向けて、法律の枠を超えた総合的・的確な考察をする。						
	母語以外の言語で多様な人々との基礎的なコミュニケーションをとるための基本的な語学力を身につける。	社会の基本構造や多様な人々の考え方を知り、自身が社会にどのようにかかわっていくか考えるための基本的な知識を修得する。	社会人として中長期的な人生設計に基づき活躍していくための基本的な知識・技能を修得する。	社会をより深く理解することで湧いてきた課題意識を基に、答えのない課題に主体的に取り組む力を身につける。	身に着けた専門性を活用し、グループで協力しながら問題解決に取り組むことで、「論理的思考力」と「課題解決力」を身につける。	社会とのつながりを意識し、自己の経験を内省することで、生涯にわたって学び成長する意欲と態度を身につける。	社会一般で必要とされる基礎的な法律の体系的知識を修得する。	基礎的な法律の知識体系を使って、様々な法専門分野とかかわる現代社会の問題を分析し考察することができる。	学んだ法律の体系的知識を補完するとともに、発展的知識を身につける。	学んだ法律の体系的知識を活用し、実習を通して課題解決能力とリスクマネジメントの知識を身につける。	学んだ法律の体系的知識を活用し、企業法務と組織運営の実践力を身につける。	学んだ法律の体系的知識を活用し、資格取得に必要なとされる専門知識を修得する。	法律の隣接科目の知識を修得する。
科目区分	外国語	教養教育	基礎科目・キャリア・実技	実習	演習・ゼミ科目	基礎科目	専門科目	特別講座科目	リスクマネジメント科目	企業実務科目	資格講座科目	関連科目	
4年					専門演習B キャリア・チュートリアル								
3年			キャリアプラン実践		専門演習A キャリア・チュートリアル3		債権各論1 債権各論2 地方自治法 行政学Ⅱ 行政救済法 環境法 企業法1 企業法2 税法総論 税法各論		労働法1 労働法2 国際政治学1 国際政治学2 国際法 外国法 登記法1 登記法2 知的財産法	リスクマネジメント各論1 リスクマネジメント各論2 リスクマネジメント実習2	ビジネス実務法務論3 ビジネス実務法務論4 ビジネス実務法務論5	租税論	
2年	※日本語3	外国文学 倫理学 教育学 日本国憲法 人権論 地域学	キャリアプラン	インターンシップ事前事後指導 インターンシップ 海外語学実習 海外社会実習	法学基礎セミナー1 法学基礎セミナー2 キャリア・チュートリアル2		債権総論 物権法 担保物権法 民事訴訟法1 民事訴訟法2 民法総則2 刑法総論 刑法各論	刑事訴訟法1 刑事訴訟法2 行政法総論 行政学1 政治学1 政治学2 法哲学 法社会学	法政特別講座1(公法) 法政特別講座2(私法) 法政特別講座3(地域) 法政特別講座4(国際)	リスクマネジメント総論 リスクマネジメント実践論 リスクマネジメント実習1	ビジネスと簿記 ビジネス実務法務論1 ビジネス実務法務論2	法職基礎講座(私法1) 法職基礎講座(私法2) 法職発展講座(不動産) 法職発展講座(公法)	国際経済学入門 国際社会学 財政学入門 金融論入門 国際金融論
1年	英語1A 英語1B 英語2A 英語2B 英語リスニング・スピーキング1 英語リスニング・スピーキング2 英語リーディング・ライティング1 英語リーディング・ライティング2 ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ 中国語Ⅰ 中国語Ⅱ 韓国語Ⅰ 韓国語Ⅱ インドネシア語Ⅰ インドネシア語Ⅱ ※日本語1 ※日本語2	哲学 日本史 外国史 日本文学 心理学 法学 経済学 社会学 自然科学概論 健康科学 数学と社会 環境科学	キャリアデザイン スポーツ実技 情報処理演習 アカデミックスキル(思考) アカデミックスキル(表現) アカデミックスキル(情報リテラシーと調査)	地域連携(地域貢献) 地域連携(社会貢献) 地域貢献(まちづくり) 社会実習	入門セミナー1 入門セミナー2 キャリア・チュートリアル1	憲法1 憲法2 法律学入門1 法律学入門2 民法総則1	親族法 相続法		リスクマネジメント入門		法職入門講座 法職基礎講座(公法)	ミクロ経済学 ビジネスとコミュニケーション	

教育課程 編成方針	<p>(1)共通教育科目では、教養教育を担うため全学部共通で設定しており、大学での学修の基礎となる知識やスキル、そして豊かな人間性と高い教養を身につけるべく基幹教育科目群(基礎科目、外国語科目)、教養教育科目群に区分する。</p> <p>①学修の基礎となる知識やスキルの修得のため「入門セミナー1」、「入門セミナー2」を必修として、また「アカデミックスキル(思考)」、「アカデミックスキル(表現)」を配置する。【知識・理解、思考・判断、関心・意欲・態度、技能・表現】</p> <p>②外国語運用能力の修得、特に英語の運用能力の修得のため、「英語1A」、「英語1B」、「英語2A」、「英語2B」を必修として配置する。その他にも英語・ドイツ語・韓国語・中国語・インドネシア語の科目を配置する。【知識・理解、思考・判断、関心・意欲・態度、技能・表現】</p> <p>③豊かな人間性と高い教養を身につけるべく教養教育科目群において、人文・社会・自然の各領域の科目を配置する。また、地域に根差した人材育成のため「地域連携」に関わる科目を配置する。【知識・理解、思考・判断、関心・意欲・態度、技能・表現】</p> <p>④キャリア意識をそだてるために、「キャリアデザイン」を必修として、「インターンシップ」、「インターンシップ事前事後指導」等の科目を配置する。【知識・理解、思考・判断、関心・意欲・態度、技能・表現】</p> <p>⑤高度情報化社会の中で活躍できる人材として必要な情報リテラシーや基本的な能力の修得のため、「情報処理演習」、「アカデミックスキル(情報リテラシーと調査)」、「データサイエンス」、「数学と社会」の各科目を配置する。【知識・理解、思考・判断、関心・意欲・態度、技能・表現】</p> <p>(2)専門教育科目では、専門科目群、特別講座科目群、リスクマネジメント科目群、企業実務科目群、資格講座科目群、関連科目群、演習群の7つに科目群区分する。</p> <p>①専門科目群は、学生が学年を追って段階的に科目同士の関連性や法的体系性を認識させ、その関連性・体系性から導かれる法的論理力・思考力を涵養させるべく「憲法1・2」、「法律学入門1・2」、「民法総則1・2」等を配置する。また、民法をはじめとする「物権法」、「債権総論」、「刑法総論」等を配置する。さらに、プレゼンテーションや協働能力の向上のために「キャリア・チュートリアル1~4」を配置する。【知識・理解、思考・判断、関心・意欲・態度、技能・表現】</p> <p>②特別講座科目群は、専門科目群だけでは不十分な法律科目の学習を補助する科目や法律に限らない特殊な内容を学ぶために「法政特別講座1~4」を配置する。【知識・理解、思考・判断、関心・意欲・態度】</p> <p>③リスクマネジメント科目群は、「リスクマネジメントコース」に所属する学生が、将来の進路に応じて、リスクマネジメントの知識を入門から実践まで体系的に学ぶことができる科目を配置する。【知識・理解、思考・判断、関心・意欲・態度、技能・表現】</p> <p>④企業実務科目群は、「キャリアコース」に所属する学生が、将来の進路に応じて、企業の組織運営と企業法務の知識を実践的に学ぶことができる科目を配置する。【知識・理解、思考・判断、関心・意欲・態度、技能・表現】</p> <p>⑤資格講座科目群は、学生が関心や将来の進路に応じて資格取得を目指すことができるように「法職入門講座」、「法職基礎講座」、「法職発展講座」等を配置する。【知識・理解、思考・判断、技能・表現】</p> <p>⑥関連科目群は、教員免許取得に必要な科目やコミュニケーションスキルを養うための科目等を配置する。【知識・理解、技能・表現】</p> <p>⑦演習群は、それまで修得できた知識やスキルを統合するとともにコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、課題発見力、課題解決力等を養成するため「専門演習A・B」を配置する。【知識・理解、思考・判断、関心・意欲・態度、技能・表現】</p>
--------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

入学者 受入れ 方針	<p>【知識・技能】</p> <p>①高等学校の教育課程を幅広く修得している。</p> <p>②高等学校までの「国語総合(現代文)」や「英語」の履修を通じて、基礎的なコミュニケーション能力を身につけている。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>③現代社会の問題について、知識や情報をもとに筋道立てて考え、その内容をわかりやすく表現できる。</p> <p>【主体性・協働して学ぶ態度】</p> <p>④クラブ活動、委員会活動や社会奉仕等を通じて、多様な人々と協働して主体的に学ぶ姿勢を身につけている。</p> <p>⑤法律学の知識やリーガルマインド及び学内外での様々な体験を社会で活かしたいという目的意識と意欲がある。</p>
------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

現代ビジネス学部 地域経済学科 カリキュラムマップ

必修科目 赤字は実習科目

学部 人材養成	現代ビジネス学部は、21世紀の社会を展望し、グローバル化の進む世界や地域のビジネス組織、すなわち企業、自治体、民間団体などで活躍できる豊かな教養と知識を有する人材を養成する。
学科 人材養成	現代ビジネス学部地域経済学科は、経済学や経営学に関する基本的な知識を身につけ、企業や地域の組織体での就労を通して産業や地域社会に貢献する中堅的な人材を養成する。
学位授与 方針	<p>【知識・理解】</p> <p>①人文社会自然科学を基礎とした幅広い教養を身につけている。</p> <p>②経済学や経営学の専門的知識及びその活用方法を身につけている。</p> <p>【思考・判断】</p> <p>③ローカルな視点とグローバルな視点を併せ持ち、現代の経済、社会、文化について論理的に考えて分析し考察することができる。</p> <p>④地域社会の多様なフィールドにおける諸課題の解決に向けて、的確な学際的考察及び総合的判断ができる。</p> <p>【関心・意欲・態度】</p> <p>⑤地域社会の諸課題に対して自ら積極的に関心をもち続け、地域社会に貢献することができる。</p> <p>⑥多様な人々との交流、連携、協働を通じて、社会人として成長し続ける意欲と態度を身につけている。</p> <p>【技能・表現】</p> <p>⑦自己の思考・判断のプロセス及び結果を他者にわかりやすくプレゼンテーションできる。</p> <p>⑧良好な人間関係を構築するためのコミュニケーション能力を身につけている。</p>

	大学共通				現代ビジネス学部共通								
学位授与 の方針 (再表現)	人文社会自然科学を基礎とした幅広い教養を身につけている。				専門性を活用して社会に存在する課題を自ら見つけ出し、仲間とともに、課題解決していくための力を身につける。				経済学や経営学の専門的な視点から地域社会の多様なフィールドにおける課題をより深く理解し、地域社会に存在する課題を解決していくための専門的な力を身につける。				社会の仕組みの理解を深めたり、社会への参加の意識と可能性を広げるために活用できる知識と技能を学部・学科の専門領域を超えて広く修得する
科目区分	外国語	教養教育	基礎科目・キャリア・実技	実習	演習科目	基礎科目	基幹科目	経済コース	経営コース	地域づくりコース	観光ビジネスコース	スポーツマネジメントコース	関連科目
4年					卒業研究								
3年			キャリアプラン実践		専門演習Ⅲ 専門演習Ⅳ		地方財政論 グローバル経済論	租税論 経済統計 応用経済学	企業論 国際物流論 会計学4 ビジネスリーダーシップ論 ビジネスケーススタディ	地域経済論 社会調査法 地域づくり実習Ⅱ	ホスピタリティ・マネジメント	スポーツ社会学 スポーツ心理学 スポーツ・レクリエーション指導演習	国際政治学1 国際政治学2 国際法
2年	※日本語3	外国文学 倫理学 教育学 日本国憲法 人権論 地域学	キャリアプラン インターンシップ 海外語学実習 海外社会実習	インターンシップ インターンシップ 海外語学実習 海外社会実習	専門演習Ⅰ 専門演習Ⅱ	北九州学 ビジネスと法律	地域経済論入門 マクロ経済学 日本経済論 経済政策論 国際経済学入門 労働経済学 財政学入門 金融論入門 統計学入門 会計学2 会計学3 経営組織論 流通概論 企業論入門 マーケティング論入門 人的資源管理論	経済学史 社会保障論 国際金融論 経済史 経済数学 環境経済論 国際貿易論	マーケティング論 経営管理論 中小企業論 ビジネスデータ分析 経営資格講座	地域づくり論 都市とコミュニティ 地域づくり実習Ⅰ	ホテルマネジメント論 観光ビジネス論 観光マーケティング論 観光プラン実践Ⅰ 観光プラン実践Ⅱ	コーチング論 スポーツマネジメント概論 イベントプランニング 発育発達論 スポーツバイオメカニクス論	憲法2 国際社会学 TOEIC 1 TOEIC 2 Advanced TOEIC 1 Advanced TOEIC 2 ファンリテーション実践
1年	英語1A 英語1B 英語2A 英語2B 英語リスニング・スピーキング1 英語リスニング・スピーキング2 英語リーディング・ライティング1 英語リーディング・ライティング2 ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ 中国語Ⅰ 中国語Ⅱ 韓国語Ⅰ 韓国語Ⅱ インドネシア語Ⅰ インドネシア語Ⅱ ※日本語1 ※日本語2	哲学 日本史 外国史 日本文学 心理学 法学 経済学 社会学 自然科学概論 健康科学 数学と社会 環境科学	キャリアデザイン スポーツ実技 情報処理演習 アカデミックスキル(思考) アカデミックスキル(表現) アカデミックスキル (情報リテラシーと調査)	プラン&プラクティス 地域連携(社会貢献) 地域連携(社会貢献) 地域貢献(まちづくり)	入門セミナー1 入門セミナー2	経済学入門 マネジメント入門 グローバル・スタディーズ入門	ミクロ経済学 経営戦略論 会計学1 観光概論 対人コミュニケーション論						ビジネスとコミュニケーション 民法総則 憲法1 法学概論

教育課程 編成方針	<p>(1)共通教育科目では、教養教育を担うため全学部共通で設定しており、大学での学修の基礎となる知識やスキル、そして豊かな人間性と高い教養を身につけるべく基幹教育科目群(基礎科目、外国語科目)、教養教育科目群に区分する。</p> <p>①学修の基礎となる知識やスキルの修得のため「入門セミナー1」、「入門セミナー2」を必修として、また「アカデミックスキル(思考)」、「アカデミックスキル(表現)」を配置する。【知識・理解、思考・判断、関心・意欲・態度、技能・表現】</p> <p>②外国語運用能力の修得、特に英語の運用能力の修得のため、「英語1A」、「英語1B」、「英語2A」、「英語2B」を必修として配置する。その他にも英語・ドイツ語・韓国語・中国語・インドネシア語の科目を配置する。【知識・理解、思考・判断、関心・意欲・態度、技能・表現】</p> <p>③豊かな人間性と高い教養を身につけるべく教養教育科目群において、人文・社会・自然の各領域の科目を配置する。また、地域に根差した人材育成のため「地域連携」に関わる科目を配置する。【知識・理解、思考・判断、関心・意欲・態度、技能・表現】</p> <p>④キャリア意識をそだてるために、「キャリアデザイン」を必修として、「インターンシップ」、「インターンシップ事前事後指導」等の科目を配置する。【知識・理解、思考・判断、関心・意欲・態度、技能・表現】</p> <p>⑤高度情報化社会の中で活躍できる人材として必要な情報リテラシーや基本的な能力の修得のため、「情報処理演習」、「アカデミックスキル(情報リテラシーと調査)」、「データサイエンス」、「数学と社会」の各科目を配置する。【知識・理解、思考・判断、関心・意欲・態度、技能・表現】</p> <p>(2)専門教育科目では、基礎科目群、基幹科目群、コース科目群、関連科目群、演習群の5つに科目群区分する。</p> <p>①基礎科目群は、経済学・経営学の基礎科目である「経済学入門」、「マネジメント入門」を必修として配置する。また、PBL型の教育により地域の諸課題の解決方法を学生に考えさせることで課題発見力、プレゼンテーション能力、課題へのアプローチ方法、実践力等を身につけるべく「プラン&プラクティス」を配置する。【知識・理解、思考・判断、関心・意欲・態度、技能・表現】</p> <p>②基幹科目群は、グローバル化の進む経済社会、ならびに地元北九州の地域特性を理解するため「地域経済論入門」を学科の必修科目として配置する。さらに経営学的な思考を身につけるために「会計学1〜3」、「経営組織論」等を配置し、経済・経営の各学問領域における専門的基礎知識を体系的に修得する。【知識・理解、思考・判断】</p> <p>③コース科目群は、地域社会の具体的な問題解決を行い、各学問領域における専門知識を現場で応用できるよう、各コースで必要とされる専門科目を必修化し、それに関連する科目を学問系列ごとに分けて5つのコース科目として配置する。学生は5つのコース「経済コース」、「経営コース」、「地域づくりコース」、「観光ビジネスコース」、「スポーツマネジメントコース」のいずれかに所属する。なお、所属のコース科目で生まれた新たな関心・意欲に応え、幅広い学問領域における専門知識を体系的に修得するため、他のコース科目の履修を推奨する。【知識・理解、思考・判断、関心・意欲・態度】</p> <p>④関連科目群は、教員免許取得に必要な科目やコミュニケーションスキルを養うための科目等を配置する。【知識・理解、技能・表現】</p> <p>⑤演習群は、それまで修得してきた知識やスキルを統合するとともにコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、課題発見力、課題解決力等を養成するため、必修科目として「専門演習Ⅰ〜Ⅳ」を配置し、学修の集大成として「卒業研究」を配置する。【知識・理解、思考・判断、関心・意欲・態度、技能・表現】</p>
--------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

入学者 受入れ 方針	<p>【知識・技能】</p> <p>①高等学校の教育課程を幅広く修得している。</p> <p>②高等学校までの「国語総合(現代文)」や「英語」の履修を通じて、基礎的なコミュニケーション能力を身につけている。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>③現代社会の問題について、知識や情報をもとに筋道立てて考え、その内容をわかりやすく表現できる。</p> <p>【主体性・協働して学ぶ態度】</p> <p>④クラブ活動、委員会活動や社会奉仕等を通じて、多様な人々と協働して主体的に学ぶ姿勢を身につけている。</p> <p>⑤経済学や経営学の知識及び学内外での様々な体験を社会で活かしたいという目的意識と意欲がある。</p>
------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

現代ビジネス学部 国際社会学科 カリキュラムマップ

必修科目 赤字は実習科目

学部 人材養成	現代ビジネス学部は、21世紀の社会を展望し、グローバル化の進む世界や地域のビジネス組織、すなわち企業、自治体、民間団体などで活躍できる豊かな教養と知識を有する人材を養成する。
学科 人材養成	現代ビジネス学部国際社会学科は、国際社会科学を基にして異文化を理解し国際情勢を読み解くための基礎的な知識を身につけ、現代社会のグローバルな変化に対応できる国際対話能力を養い、国際社会だけでなく地域社会でも活躍する人材を養成する。
学位授与 方針	<p>【知識・理解】</p> <p>①人文社会自然科学を基礎とした幅広い教養を身につけている。</p> <p>②国際社会科学や異文化理解の知識及びその活用方法を身につけている。</p> <p>【思考・判断】</p> <p>③ローカルな視点とグローバルな視点を併せ持ち、現代の経済、社会、文化について論理的に考えて分析し考察することができる。</p> <p>④現代社会の多様なフィールドにおける諸課題の解決に向けて、的確な学際的考察及び総合的判断ができる。</p> <p>【関心・意欲・態度】</p> <p>⑤現代社会の諸課題に対して自ら積極的に関心をもち続け、現代社会に貢献することができる。</p> <p>⑥自ら課題を探求し、他者と協力しながら自律的、主体的に課題を解決するための意欲と職業的自律を図るための態度を身につけている。</p> <p>【技能・表現】</p> <p>⑦外国語で書かれた資料や書類を理解し、必要な情報を的確に読み取り討議や意見交換を行うことができる。</p> <p>⑧国際コミュニケーションの手段として必要な、英語や韓国語を中心とした国際対話能力を身につけている。</p>

科目区分	大学共通			現代ビジネス学部共通							
	外国語	教養教育	基礎科目・キャリア・実技	実習	演習科目	基礎科目	基幹科目	英語コース	ハングルコース	国際コース	関連科目
4年					卒業研究						
3年			キャリアプラン実践		専門演習Ⅲ 専門演習Ⅳ		国際政治学1 国際政治学2 異文化コミュニケーション論 国際社会と福祉 国際法 グローバル経済論 グローバル化時代と国際関係	英米文学講読1 英米文学講読2 英語研究1 英語研究2 Advanced Reading Advanced Writing Speech & Discussion	韓国・朝鮮半島への知識を高め、実践的な学びを通して韓国語を修得し、留学や海外実習などで国際感覚を身につける。	国際政治、国際経済など、国際情勢を読み解くために必要となる専門的な知識を身につける。また、異文化に対する理解を深め、国際貢献に必要な知識・スキルを身につけることで、現代社会で活躍できる力を修得する。	組織を円滑に運営するために必要なコミュニケーション能力や他者に対する理解と配慮の能力と、実践的なマナーを身につける。
2年	※日本語3	外国文学 倫理学 教育学 日本国憲法 人権論 地域学	キャリアプラン	インターンシップ 事前事後指導 インターンシップ	専門演習Ⅰ 専門演習Ⅱ	北九州学 ビジネスと法律	国際社会学 国際経済学 比較文化論 日本文化論 比較宗教論 アメリカ文学 イギリス文学 欧米社会論	Advanced TOEIC 1 Advanced TOEIC 2 Communicative English 1 Communicative English 2 Reading Writing 英語学概論 英文法論 英語音声学1 英語音声学2	韓国事情1 韓国事情2 韓国語会話Ⅰ 韓国語会話Ⅱ 検定韓国語	国際協力論 カルチュラルスタディーズ(思想) カルチュラルスタディーズ(社会) 開発経済論 NGO論 多文化共生論	ファシリテーション実践 対人コミュニケーション論
1年	英語1A 英語1B 英語2A 英語2B 英語リスニング・スピーキング1 英語リスニング・スピーキング2 英語リーディング・ライティング1 英語リーディング・ライティング2 ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ 中国語Ⅰ 中国語Ⅱ 韓国語Ⅰ 韓国語Ⅱ インドネシア語Ⅰ インドネシア語Ⅱ ※日本語1 ※日本語2	哲学 日本史 外国史 日本文学 心理学 法学 経済学 社会学 自然科学概論 健康科学 数学と社会 環境科学 データサイエンス ※日本文化 ※日本経済	キャリアデザイン スポーツ実技 情報処理演習 アカデミックスキル(思考) アカデミックスキル(表現) アカデミックスキル(情報リテラシーと調査)	プラン&プラクティス 海外語学実習 海外社会実習 地域連携(地域貢献) 地域連携(社会貢献) 地域連携(気づくり)	入門セミナー1 入門セミナー2	グローバル・スタディーズ入門 経済学入門 マネジメント入門	Topic Based English 1 Topic Based English 2 国際社会入門1 国際社会入門2 TOEIC 1 TOEIC 2 外書講読				ビジネスとコミュニケーション

教育課程 編成方針	<p>(1) 共通教育科目では、教養教育を担うため全学部共通で設定しており、大学での学修の基礎となる知識やスキル、そして豊かな人間性と高い教養を身につけるべく基幹教育科目群(基礎科目、外国語科目)、教養教育科目群に区分する。</p> <p>① 学修の基礎となる知識やスキルの修得のため「入門セミナー1」、「入門セミナー2」を必修として、また「アカデミックスキル(思考)」、「アカデミックスキル(表現)」を配置する。【知識・理解、思考・判断、関心・意欲・態度、技能・表現】</p> <p>② 外国語運用能力の修得、特に英語の運用能力の修得のため、「英語1A」、「英語1B」、「英語2A」、「英語2B」を必修として配置する。その他にも英語・ドイツ語・韓国語・中国語・インドネシア語の科目を配置する。【知識・理解、思考・判断、関心・意欲・態度、技能・表現】</p> <p>③ 豊かな人間性と高い教養を身につけるべく教養教育科目群において、人文・社会・自然の各領域の科目を配置する。また、地域に根差した人材育成のため「地域連携」に関わる科目を配置する。【知識・理解、思考・判断、関心・意欲・態度、技能・表現】</p> <p>④ キャリア意識をそだてるために、「キャリアデザイン」を必修として、「インターンシップ」、「インターンシップ事前事後指導」等の科目を配置する。【知識・理解、思考・判断、関心・意欲・態度、技能・表現】</p> <p>⑤ 高度情報化社会の中で活躍できる人材として必要な情報リテラシーや基本的な能力の修得のため、「情報処理演習」、「アカデミックスキル(情報リテラシーと調査)」、「データサイエンス」、「数学と社会」の各科目を配置する。【知識・理解、思考・判断、関心・意欲・態度、技能・表現】</p> <p>(2) 専門教育科目では、基礎科目群、基幹科目群、コース科目群、関連科目群、演習群の5つに科目群区分する。</p> <p>① 基礎科目群は、グローバル社会における諸問題について、人文・社会科学のさまざまな視点から考える「グローバル・スタディーズ入門」を必修として配置する。また、PBL型の教育により地域の諸課題の解決方法を学生に考えさせることで課題発見力、プレゼンテーション能力、課題へのアプローチ方法、実践力等を身につけるべく、「プラン&プラクティス」を配置する。【知識・理解、思考・判断、関心・意欲・態度、技能・表現】</p> <p>② 基幹科目群は、英語運用能力の向上と英語情報を用いて学ぶ思考力と技術を養うために「Topic Based English 1」を必修科目として配置する。また、「国際社会入門1・2」を学部の必修科目として配置する。さらに国際社会を理解するために「国際経済学」、「グローバル化時代と国際関係」、「異文化コミュニケーション論」等を配置し、国際社会科学の各学問領域における専門的基礎知識を体系的に修得する。【知識・理解、思考・判断】</p> <p>③ コース科目群は、国際社会の具体的な問題解決を行い、各学問領域における専門知識を現場で応用できるよう、各コースで必要とされる専門科目を必修化し、それに関連する科目を学問系列ごとに分けて3つのコース科目として配置する。学生は3つのコース「英語コース」、「ハングルコース」、「国際コース」のいずれかに所属する。なお、所属のコース科目で生まれた新たな関心・意欲に応え、幅広い学問領域における専門知識を体系的に修得するため、他のコース科目の履修を推奨する。【知識・理解、思考・判断、関心・意欲・態度】</p> <p>④ 関連科目群は、コミュニケーションスキルを養うための科目等を配置する。【知識・理解、技能・表現】</p> <p>⑤ 演習群は、それまで修得してきた知識やスキルを統合するとともにコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、課題発見力、課題解決力等を養成するため、必修科目として「専門演習Ⅰ～Ⅳ」を配置し、学修の集大成として「卒業研究」を配置する。【知識・理解、思考・判断、関心・意欲・態度、技能・表現】</p>
--------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

入学者 受入れ 方針	<p>【知識・技能】</p> <p>① 高等学校の教育課程を幅広く修得している。</p> <p>② 高等学校までの「国語総合(現代文)」や「英語」の履修を通じて、基礎的なコミュニケーション能力を身につけている。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>③ 現代社会の問題について、知識や情報をもとに筋道立てて考え、その内容をわかりやすく表現できる。</p> <p>【主体性・協働して学ぶ態度】</p> <p>④ クラブ活動、委員会活動や社会奉仕等を通じて、多様な人々と協働して主体的に学ぶ姿勢を身につけている。</p> <p>⑤ 国際社会科学や異文化理解の知識及び学内外での様々な体験を社会で活かしたいという目的意識と意欲がある。</p>
------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

九州国際大学基礎教育センター規程

(平成26年4月1日制定)

最終改正 令和6年5月1日

(趣旨)

第1条 この規定は、九州国際大学基礎教育センター（以下「基礎教育センター」という。）の組織、運営等に関し必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 基礎教育センターは、本学における基礎教育の推進を図ることを目的とする。

(業務)

第3条 基礎教育センターは、前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 学生の基礎学力支援に関すること。
- (2) 各事務部署の業務支援に関すること。
- (3) 前各号に掲げるもののほか、前条の目的を達成するために必要な業務に関すること。

(組織)

第4条 基礎教育センターに次の職員を置く。

- (1) 基礎教育センター長（以下「センター長」という。）
- (2) 大学事務局教育支援部基礎教育センター事務室長（以下「基礎教育センター事務室長」とい。）
- (3) 事務職員

(センター長の任期)

第5条 センター長の任期は2年とする。ただし、再任は妨げない。

2 任期中にセンター長が代わるとき、その後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(基礎教育センター委員会の設置)

第6条 基礎教育センターに、その所管する業務を適切に行うため、基礎教育センター委員会（以下「委員会」という。）を置く。

2 委員会は、次の事項について審議する。

- (1) 入学前教育に関すること。
- (2) 共通教育科目の企画立案に関すること。
- (3) 共通教育科目の調整に関すること。
- (4) その他基礎教育センターの業務及び運営に関すること。

(委員会の組織)

第7条 委員会は、次に掲げる委員をもって構成する。

- (1) センター長
 - (2) 教務部長
 - (3) 副学部長
 - (4) 共通教育科目を主に担当する専任教員より選出された委員 4名
 - (5) 大学事務局教育支援部学務事務室長
 - (6) 基礎教育センター事務室長
- 2 前項第4号の委員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。
 - 3 前項の委員に欠員が生じたときの後任者の任期は、残任者の残任期間とする。

(委員会の運営)

第8条 委員会の委員長は、センター長をもって充てる。

- 2 委員長に事故あるときは、教務部長がその職務を代行する。
- 3 委員長は、委員会を招集し、議長となる。ただし、委員の過半数から要求があるときは、委員長はこれを招集しなければならない。
- 4 委員会は、委員の過半数の出席により成立する。
- 5 委員会の議事は、出席委員の過半数をもって決する。ただし、可否同数のときは、委員長の決するところによる。
- 6 委員会が必要と認めたときは、委員会に委員以外の者に出席を求め、意見を聴くことができる。

(学長への報告等)

第9条 センター長は、委員会で決定した事項について、学長に報告しなければならない。

- 2 学長は、前項に規定する報告に基づき、学生の基礎学力支援その他本学の基礎教育の推進を図るために、実施することが必要と認められるものについては、教授会の意見を聴取し、教育研究協議会の議を経て、決定するものとする。

(事務)

第10条 委員会に関する事務は、大学事務局教育支援部基礎教育センター事務室が行う。

(改廃)

第11条 この規程の改廃は、教育研究協議会において審議する。

附 則

この規程は、平成26年4月1日から施行する。

附 則（平成 27 年 4 月 1 日）

この規程は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

（施行期日）

1 この規程は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。

（内規及び細則の廃止）

2 次に掲げる内規及び細則は、廃止する。

(1) 基礎教育センター運営協議会内規

(2) 基礎教育センター運営に関する細則

（会議体設置規程の一部改正）

3 会議体設置規程の別表の一部を次のとおり改正する。

新	旧
基礎教育センター委員会	基礎教育センター運営協議会

附 則

この規程は、令和 6 年 5 月 1 日から施行する。

九州国際大学自己点検・評価運営委員会規程

(平成24年4月1日制定)

最終改正 令和6年5月1日

(趣旨)

第1条 この規程は、九州国際大学（以下「本学」という。）の教育研究活動等の状況について自ら行う点検及び評価（以下「自己点検・評価」という。）を行う九州国際大学自己点検・評価運営委員会に関し、必要な事項を定めるものとする。

(委員会の所掌事項)

第2条 委員会は、本学の教育研究活動について、毎年度、自己点検・評価の項目を設定し、点検及び評価を行い、自己点検・評価報告書を作成し、学長に報告するものとする。

(組織)

第3条 委員会は、次の委員をもって構成する。

- (1) 学長
- (2) 副学長
- (3) 各学部長
- (4) 研究科長
- (5) 国際センター長
- (6) 社会文化研究所長
- (7) 地域連携センター長
- (8) エクステンションセンター長
- (9) 図書館長
- (10) 教育情報ネットワークセンター長
- (11) 基礎教育センター長
- (12) 入試・広報部長、教務部長、学生部長及び就職・進路部長
- (13) 法人事務局長
- (14) 大学事務局長
- (15) 大学事務局大学政策部大学評価室長

2 委員会は、学長が招集し、その議長となる。

(資料編集の委嘱)

第4条 委員会は、必要がある場合には自己点検・評価のための資料等（以下「資料」という。）の編集をワーキング・グループに委嘱できるものとする。

2 ワーキング・グループは、各学部教授会、研究科より推薦されたそれぞれ1名の委員及び大学評価室をもって構成し、委員会から委嘱された項目について資料を編集し、委員会に提出する。

(外部評価委員会の意見聴取等)

第5条 委員会は、自己点検・評価に係る資料を取りまとめたときは、当該取りまとめた資料について九州国際大学外部評価委員会の意見を求めなければならない。

2 委員会は、前項の意見を踏まえて、自己点検・評価報告書を作成し、学長に報告するものとする。

3 第1項に規定する意見は、2年に1度求めるものとする。ただし、2年に1度の意見を求めない年が大学認証評価の受審の年であるときは、当該年に同項の意見を求めるものとする。

(改善施策の実施)

第6条 学長は、前条第2項の自己点検・評価報告書に基づき本学の教育研究活動等について、改善が必要と認めるときは、その改善のために必要な施策を講じなければならない。

2 学長は、前項に規定する施策を決定しようとするときは、教育研究協議会の意見を求めるものとする。

(結果の公表)

第7条 学長は、自己点検・評価報告書について、公表するものとする。

(改廃)

第8条 この規程の改廃は、教育研究協議会において審議する。

(事務)

第9条 委員会に関する事務は、大学事務局大学政策部大学評価室が行う。

附 則 (平成24年4月1日)

1 この規程は、平成24年4月1日から施行する。

2 この規程の施行に伴い、九州国際大学自己評価検討委員会規程(平成4年6月1日制定)を廃止する。

附 則 (平成24年10月1日)

この規程は、平成24年10月1日から施行する。

附 則 (平成25年4月1日)

この規程は、平成25年4月1日から施行する。

附 則 (平成25年8月1日)

この規程は、平成25年8月1日から施行する。

附 則（平成26年4月1日）
この規程は、平成26年4月1日から施行する。

附 則（平成27年4月1日）
この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則（平成29年4月1日）
この規程は、平成29年4月1日から施行する。

附 則
この規程は、令和2年4月1日から施行する。

附 則
この規程は、令和3年4月1日から施行する。

附 則
この規程は、令和5年4月1日から施行する。

附 則
この規程は、令和6年5月1日から施行する。

大学等名	九州国際大学
教育プログラム名	九州国際大学数理・データサイエンス・AI教育プログラム

申請レベル	リテラシーレベル
申請年度	令和6年度

取組概要

プログラムの目的

本教育プログラムは、本学学生がデータサイエンスやAIへの関心と理解を高め、かつ、数理・データサイエンス・AIを適切に理解し、デジタル社会においてそれらを活用するために必要な基礎的な知識やスキルを体系的に修得させることを目指します。

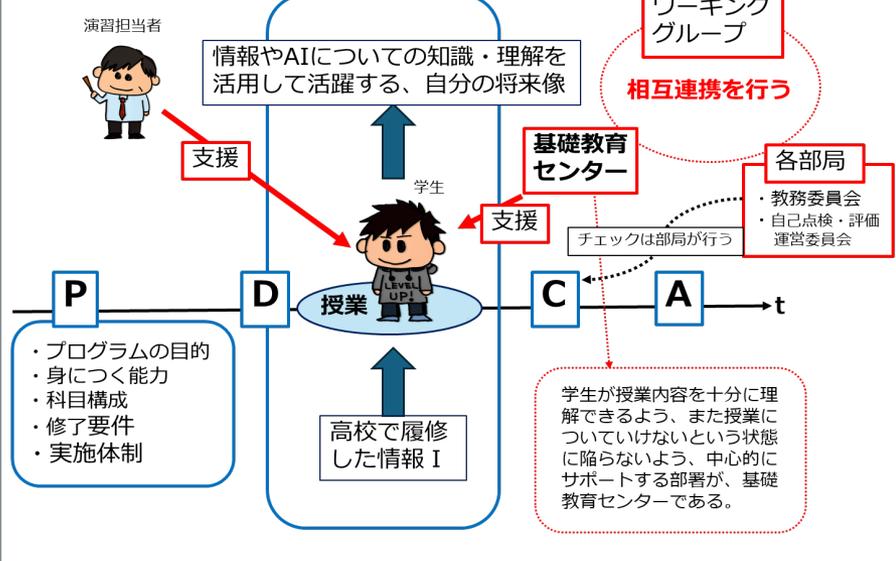
開講科目と修了要件

- ◆開講科目※いずれも全学共通1年次配当共通教育科目
 - ・アカデミックスキル（情報リテラシーと調査）
 - ・データサイエンス
- ◆修了要件
「アカデミックスキル（情報リテラシーと調査）」「データサイエンス」の2科目4単位を取得することを修了要件とする

身につけられる能力

- ①データサイエンスやAI技術の飛躍的発展やその活用範囲の広がりが、産業や仕事、私たちの暮らしにもたらす大きな変化を理解し、そうした技術を活用する意義を説明することができる。
- ②データ駆動型社会に潜むリスクについて理解し、注意すべき法制度や倫理、留意事項等を踏まえて正しくデータを取り扱うことができる。
- ③現実世界の課題を解決するためのAIやデータサイエンスに関する手法の基礎的内容を理解し、それらを用いる場面で建設的にコミュニケーションをとることができる。
- ④解決すべき課題内容を定量的なものと定性的なものに区分し、それぞれの特性を考慮したうえで課題解決方法を論理的に検討することができる。

【実施体制と受講者支援】



履修実績の推移と予測	収容定員	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
		プログラム開始		申請年度	全員履修開始		
法学部	600名	66名	186名	293名	443名	600名	600名
現代ビジネス学部	1,400名	166名	459名	759名	1,109名	1,400名	1,400名
履修率	-	21%	32%	53%	78%	100%	100%
※履修者数		自由履修	自由履修	自由履修	全員履修	全員履修	全員履修
2科目計				<1年目>	<2年目>	<3年目>	<4年目>